

第9回小田原市市民活動推進委員会 会議録

- 1 日時：令和6年7月26日（金）午前9時30分～午前11時00分
- 2 場所：おだわら市民交流センターUMECO 会議室2・3
- 3 出席者：前田委員長、林田副委員長、杉浦委員、北村委員、杉川委員、渡邊委員、島田委員、安藤委員
事務局：澤地課長、八田副課長、城戸主査、菊地主事補

4 資料：

- ・次第
- ・資料1 市民活動・協働応援制度補助金に係るご意見等について
- ・資料2 諮問事項に係る協働ガイドラインの活用
- ・参考 PR用概要版のアウトライン
- ・資料3 市民活動応援補助金交付事業報告会について

5 会議内容

■ 開会

■ 議題（1）諮問事項「明日の小田原を創出する協働施策について」

委員長：議題（1）諮問事項「明日の小田原を創出する協働施策について」、①市民活動・協働応援制度補助金の振り返り、に入る。それでは、本議題について、事務局から御説明をお願いしたい。

（事務局 資料1に基づいて説明）

委員長：ただいまの説明で何か意見や質問はあるか。

委員：助成金活用講座の開催時期を検討するという記述が複数箇所で見受けられるが、これは来年以降も継続して開催するという前提であるのか。

事務局：助成金活用講座については非常に好評であったため、継続する方向で指定管理者と協議していきたい。

委員：1ページの「1. 応募の手引き（募集説明会・説明動画含む）に係る意見」の(1)について、募集説明会の参加団体数とそこから申請に結び付いた団体数を教えてほしい。また、現時点で申請に至らなかった団体へ聞き取りはしていないのか。

事務局：昨年度の説明会は、12月1日・3日の2日間開催された。12月1日に11団体、12月3日は4団体の参加があった。合わせて15団体のうち、実際に補助金の申請に至った団体は10団体であった。現時点では申請に至らなかった団体からの聞き取りはしておらず、今後機会があったらしていきたい。

委員：参加した15団体の内訳を教えてほしい。またどのような周知を行ったのか。

事務局：半数ほどはすでに補助金を受けた団体であった。主な周知方法として、過去に補助金を受けた団体への案内を行っている。今後は助成金活用講座について現在補助金を活用していない団体にも周知し、必要な団体に広く情報が届くよう努める。

委員：助成金だけでなく、活動資金全般に焦点を当ててみたらどうか。小田原の市民活動団体の状況に合わせた講座を検討すると良いのではないか。

事務局：市民活動団体が自走できる状態になることが1つのゴールであると思う。そのためにまずは資金が足りない事業のイニシャルコストを負担するために補助金という制度がある。UMECOと連携しながら、助成金だけでなく、団体の発展に役立つ講座を検討し、多くの団体に参加してもらうことを目指していきたい。

委員長：今回は「助成金活用講座」という講座名であったので、もう少し広く「資金を獲得するための講座」という視点にすると良いかもしれない。また事前質問についてプレゼン資料に含めることで対応することだが、他市では回答のみ記載して、質問が記載されていない例があったので、一般の参加者にわかりやすいような資料作成をお願いしたい。

委員長：次に、議題（1）諮問事項「明日の小田原を創出する協働施策について」、②協働ガイドラインの概要版について、に入る。それでは、本議題について、事務局から御説明を

お願いしたい。

(事務局 資料2・参考に基づいて説明)

委員長：ただいまの説明で何か意見や質問はあるか。

委員：具体的なターゲットとしてどの層をイメージしているのか。

事務局：新しく協働を知った方にアプローチしたい。「協働」を知らない団体や事業者が「協働」に取り組むきっかけとなるものを作成したいと考えている。

委員：現在活動をしている団体が行き詰った際に、他の団体と協力するという選択肢に気付くことを目指しているというイメージであるか。

事務局：そのとおりである。参考資料1ページ目の「このような団体におすすめ」という項目では、その層にアプローチし、協働のきっかけとなることを考えて作成を行った。

委員：多くの市民への周知ということで、地域で活動している団体や事業者が対象として想定され、そういったところへの周知方法を幅広く持つ必要がある。この点について考えがあれば教えてほしい。

事務局：まちづくり委員会や自治会、協働相手にもアプローチしていきたい。また、UMECOの主催事業があった際に、概要版を用意しておくことができたらと考えている。

委員：概要版のレイアウトについて、QRコードの場所は視線の誘導的に、一番下にあるとスムーズかなと思う。

委員：潜在的なニーズが考えられる学校や老人ホームなどに対しても積極的に周知を行うことで、ニーズを満たすために、UMECOに相談してみようといったアプローチが出てくるかもしれない。

事務局：ニーズがあるところに届けることは重要であると考えている。一方で、どれだけ発行することができるかという関係もある。ニーズのある場所やどのように周知を進めるかについて、さらに検討していく。

委員：概要版はまずは手に取ってもらうことが重要であると思うので、ターゲット層に合わせて、タイトルをキャッチーにしたり、協働の説明を簡潔にするなど、変更してみても良いかもしれない。

事務局：まずは手に取りたいと思ってもらえる表紙を作りたいと考えている。ターゲットに合わせてデザインを変更することを検討する。

委員：神奈川県内のどこの市町も当初は「協働」を推進していたものの、現在はなかなかうまく進んでいないという課題を抱えているのではと思う。茅ヶ崎市や平塚市では協働を担当している部署のところに、現在までの協働事例が一覧で載っている。簡単な例だと、野良猫問題で自治会と市民活動団体が協力したり、公園の落書きで困っていた自治会と市民活動団体が連携した例がある。どのような事例があるのか、どのような可能性があるのか。他市の事例を参考にして、自治会の困りごとや市民活動団体、企業の協働の可能性を考えてみると良い。

事務局：UMECOは、市民活動団体を一覧にした冊子「Hello!UMECO」を作成し、まちづくり委員会で配布するなど地域とのつながりを促進しているが、実際に連携が進んでいる事例が少ないのが現状。これはニーズがなくつながっていないのか、ニーズはあるけれども市民活動団体の周知がうまくできていなくてつながっていないのか、確認が必要であると考えている。また現在UMECOは、登録団体と地域がつながっていくためにはどうしたらよいかについて、課題感を持って取り組もうとしている。そのようなことに困っている方に概要版を届けるというのも一つのやり方。小さな協力から協働がはじまり、それによってお互いがwin-winになれるとしたら良いというところまで持っていけたらと考えている。そのために何をしたらよいかについてこれから検討を進めていければと思う。

委員：例えば、地域の団体に協働のガイドラインを作成したことを周知する際に自治会長の会議で配ったところで、ほかにたどり着かない、地縁団体の中で本当に困っているところにダイレクトに届くような工夫をしてほしい。難しいと思うが、みんなで考えていける

とよいと思う。

委員：協働事例について、裏面に細かく記載するのも良いと思うが、表紙にこのような活動も協働であるという例があると、とっかかりになると思う。

委員長：一番重要なのは、表紙。表紙が良くないと手に取ってくれない。表紙に写真をどのくらい載せられるかというのもあるが、身近なところに協働があることが分かる表紙にしてほしい。また、若い人も協働と捉えていないだけで協働に近いことをやっている例はたくさんある。例えば近隣の高校・大学に配ったときに、関係ないと思われたい表紙づくりをぜひ考えていただきたい。

■ 議題（２）市民活動応援補助金交付事業報告会の振り返りについて

委員長：議題（２）市民活動応援補助金交付事業報告会の振り返りについて、に入る。

（事務局 資料３に基づいて説明）

委員長：ただいまの説明で何か意見や質問はあるか。

委員：４ページの「２ 次回の方針（案）」の中で、「他主体との連携」や「団体同士の連携」というように一緒に何かを行うことを「連携」と表現しているが、この部分について「協働」というキーワードを使わないのか。

事務局：協働を推しているという意味では、このようなところも「協働」としたい。言葉がまとまっていないところがあるので我々の方もフォーカスして協働につなげていくような表現にしていきたい。

委員：４ページの「２ 次回の方針（案）」⑤のテーマ設定について、「事業や団体のPR」は不要であると感じた。限られた時間の中で、協働や資金確保など、私たちや他の参加者が知りたい内容に焦点を当てるよう、集約化を目指していただきたい。

事務局：他団体や一般の方にとって参考になることに焦点をおいてテーマを絞ろうと思う。また、自発的に団体のPRを始める場合もあるので、発表者にはどのような形で発表するかについて、明確に伝えることを徹底する。

委員：平塚の市民活動センターでは、市民活動ファンドの審査会や報告会后に、市民活動センターだよりの特集号を組み、通過団体の内容やほかの団体にも共通しそうな審査員からのアドバイスを共有している。先日の報告会は各団体工夫しながらやっている部分が見られたので、こういう形でやってきたとか審査員からの質問内容などを例えばHPで公開するだけでも、次に挑戦する団体の参考になると思う。現在はやりっぱなしの印象があるため、ぜひご検討を。

事務局：現在UMECOは２か月に１度情報誌を発行している。その中で、市民活動応援補助金の報告会や審査会の記事を掲載しているが、今年度に入ってからこの情報誌のページが拡充し、記事の量にボリュームを持たせることができるようになった。今後は単純な経過記事ではなく、各団体の参考となるような内容の記事作成を検討し、既存のプラットフォームを活用することをUMECOにも働きかけていきたいと考える。

委員：それをUMECOにやっていただくと、それを編集するUMECOスタッフの力もつくのではないか。

事務局：市民活動応援補助金については、受付や事前相談をUMECOが担当しており、また報告会や審査会の開催もUMECOと共催で行っている。指定管理の内容として関わっていただいている部分もあるので、それぞれの意識を高めていくためにも働きかけを強くしていきたい。

委員長：以前からの懸案事項で、報告会に一般の参加者が少ないというのがある。差し支えない範囲で、一般の参加者はどのような人であったのか教えてほしい。

事務局：一般といえども、発表団体の関係者や、これから団体と関わる可能性があるという市職員であった。

委員長：次回から市民活動・協働応援制度補助金の報告会となる。協働ガイドラインには、補助金や助成金も１つの協働のパターンと記載されているので、例えば概要版で報告会の存

在をアピールしたり、助成金活用講座の際に毎年報告会を行っていることを周知するなど、周知を強化するのが良いと思う。いろんな機会に毎年6月に報告会があることを一般の方に周知する取り組みが必要であると思う。また、次回取組の中に、交流シートをきっかけに連携に対し、前向きな反応を示していたというのがあるが、その後実際に進展があったという情報はあるのか。

事務局：団体には、交流希望があったことを伝え、希望する団体にメールアドレスを教えてよいか確認をしている。現状そこまでしかわかっていない。ただ、交流希望を聞いた団体はどこも前向きな反応を示していたので、今後の進展に期待している。

委員長：この交流がうまくいったら、このようなところで協働のきっかけが作れたという生の声を載せることができる。そうすると協働のイメージがより伝わるので、進展に期待したい。

委員：特集号等での報告を提案する話があったが、UMECOのHPを見てみると、応援補助金に関する情報が見当たらない。募集期間外では情報が見つけない状況のため、UMECOのHPにバナーを設置するなど、入り口になるようなものが常にあるとわかりやすいと思う。市のHPにリンクで飛ぶなどでもよいと思う。なにかとっかかりがあった方がよい。

委員長：UMECOのHPはスマートフォン対応の形式になっていないので、見にくい。

委員：PCでもUMECOのHPで補助金を受け取った団体の情報がわからなかったのも、行政のHPで見た。

委員長：過去どのような団体が補助金を受けて協働しているかという情報について、平塚市のものは見やすい。

委員：みなさんの入り口として、UMECOに情報があったら良い。

事務局：UMECOのHPから補助金の情報が見えないのは確か。市民活動・協働応援制度の重要性を考えると、バナー設置や表現の工夫をUMECOと協議して改善したい。また、報告会で展示した交付団体の視察内容や活動の様子をHPに掲載すれば、具体的な活動内容がわかりやすくなり、市民の理解も深まる。さらに、これを継続的に更新すれば、過去の活動も振り返ることができる資料となると思う。UMECOのHPのスマートフォン対応については、令和6年度の指定管理の業務内容の中にスマートフォン対応を含むHPの改定が入っている。スケジュールは未定だが、閲覧しやすいHPを目指して進めていきたいと思っている。

委員長：第三者評価の際もスマートフォン対応は急務であるとの話があった。若い方はスマートフォンで見られないとその先に進んでくれない。高齢者の方もスマートフォンで見た際にPC版が小さいまま表示されている状態だとその先に進んでくれないので急務である。

■ その他

委員長：その他について、事務局からお願いします。

(事務局 今後の会議日程の調整)

※調整の結果、今後の会議日程及び場所は次のとおりとなった。

第10回委員会・・・8月29日(木)午前 UMECO

第11回委員会・・・10月25日(金)午前 市役所

第14回委員会・・・3月16日(日) UMECO

■ 閉会